

## 《カントリーレビュー》

### 第 91 回 OECD カントリーリスク専門家会合の結果とコートジボワールの概況

審査部カントリーリスクグループ 石井 里菜<sup>1</sup>

2021 年 10 月 13 日～14 日に第 91 回 OECD カントリーリスク専門家会合<sup>2</sup>が開催された。当会合では中南米及び西部・中央アフリカ諸国の国カテゴリーが議論され、以下 5 カ国の国カテゴリーが変更となった。

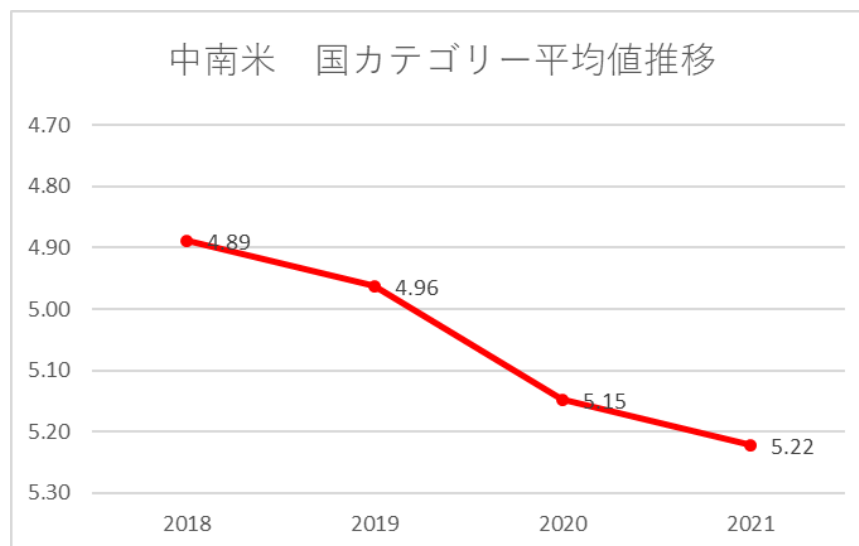
国名	地域	国カテゴリー
エルサルバドル	中南米	F→G (格下げ)
アルバ (蘭)	中南米	F→G (格下げ)
ボリビア	中南米	F→G (格下げ)
エクアドル	中南米	H→G (格上げ)
コートジボワール	西部アフリカ	G→F (格上げ)

表 1. 2021 年 10 月 18 日付け公表の NEXI 国カテゴリー変更国一覧

今回の会合結果の特徴は、国カテゴリーが引き下げとなった国が全て中南米地域<sup>3</sup>であったことである。個々の国単位では、今回のエクアドルの格上げなどの期待できる要素もあるが、グラフ<sup>4</sup>が示すように同地域の国カテゴリーの平均値は年々悪化しており、明るい状況とは言い難い。

他方、西部・中央アフリカ地域では格下げはなく、コートジボワールが格上げとなった。同地域の国カテゴリーに変動が生じるのは 4 年ぶりとなる。

本稿では、明るい動きのあった西部・中央アフリカ地域のコートジボワールに焦点を当て、同国の概況を以下に纏めることにする。



グラフ 1. 中南米 国カテゴリー平均値推移

<sup>1</sup> 本カントリーレビューの中の意見や考え方に関する部分は筆者個人としての見解を示すものであり、日本貿易保険 (NEXI) としての公式見解を示すものではありません。なお、信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、その正確性・確実性を保証するものではありません。

<sup>2</sup> OECD カントリーリスク専門家会合および NEXI の国カテゴリーの詳細については、e-NEXI 「2016 年 5 月号」をご参照ください。  
([https://www.nexi.go.jp/webmagazine/mt\\_file/e-nexi\\_2016\\_05.pdf](https://www.nexi.go.jp/webmagazine/mt_file/e-nexi_2016_05.pdf))。

<sup>3</sup> IMF2021 年 10 月世界経済見通しによると、中南米・カリブ地域の 2020 年実質 GDP 成長率は▲7.0%と地域別では最も大きな経済の落ち込みとなった。

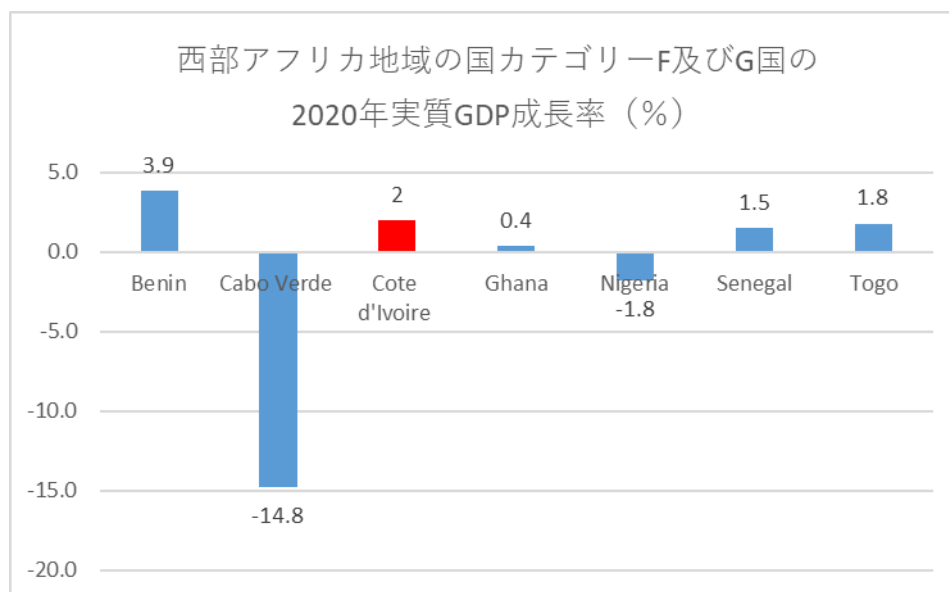
<sup>4</sup> グラフ 1 は、OECD カントリーリスク専門家会合の国カテゴリー (Country Risk Classification、0～7 の 8 段階) で表記している。同国カテゴリーの 0 が NEXI 国カテゴリーの A に、7 が H に夫々相当する。

## 1. コートジボワールの概況

### (1) 2020年新型コロナ禍のコートジボワール

2020年のコートジボワールは、少なからず新型コロナの影響を受けた。例えば、世界各国で行われたロックダウンのような新型コロナ蔓延防止策による需要低迷は、コートジボワールの輸出品である農作物や原油価格に負の影響を与えた。とりわけ、2020年第2四半期及び第4四半期には同国内の第二次産業は前年同期比マイナス成長となり、特に製造業や石油分野が落ち込むなどの影響が見られた<sup>5</sup>。

そのようななかでも、2020年のコートジボワールの実質GDP成長率は2%のプラス成長を記録した。これは、西部アフリカ地域の国カテゴリーF及びGの国の中でも、ベナンに次ぐ高い成長率である（グラフ2）。



グラフ2. 西部アフリカ地域のF及びGカテゴリー国 2020年実質GDP成長率(%)  
出所：IMF2021年10月世界経済見通しより筆者作成

この結果の背景には、同国の多角化している経済構造<sup>6</sup>、国家開発計画の継続による公共インフラプロジェクトの創出に加えて、同国政府が新型コロナに対して素早い<sup>7</sup>財政支援を行ったことが寄与している。

特に、新型コロナに対する素早い財政支援については、同国内で最初の新型コロナ感染が確認された2020年3月の翌月には、経済活動や雇用の維持等を目的とした新型コロナ対策パッケージ（1.7兆CFAフラン、GDP5%相当）が承認された。新型コロナ対策パッケージの具体的な内容は、納税猶予、VAT還付の加速等の措置を取るとともに、大企業、中小企業、インフォーマルセクター（レストランやバー、レジャー、エンターテインメント関連）、新型コロナで悪影響を受けた世帯を支援するため、追加予算財源を割り当てた<sup>8</sup>。その他、同国政府は、新型コロナで影響を受けた農業分野支援のために追加予算財源を割り当てた<sup>8</sup>。

上記のように素早く充実した支援が可能であったのは、同国が2012年の重債務貧困国イニシアチブ完

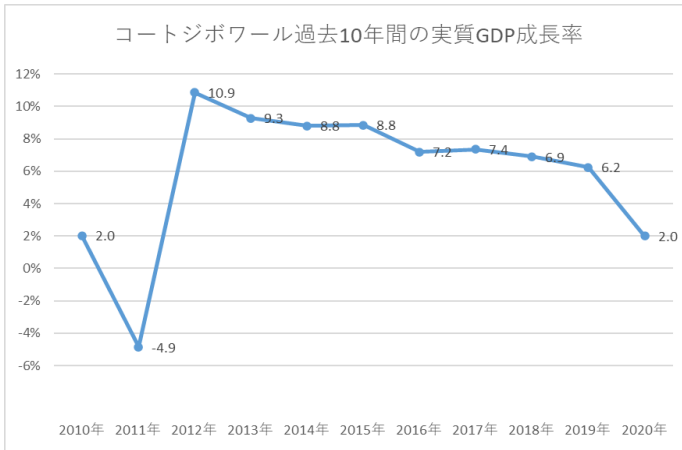
<sup>5</sup> 出所：Comptes Nationaux Trimestriels 4<sup>e</sup> Trimestre 2020

<sup>6</sup> 産業別構成比率：農林水産業 20.67%、工業（industry）21.18%、製造業（manufacturing）11.79%、サービス（services）43.1%（出所：世銀ホームページ）

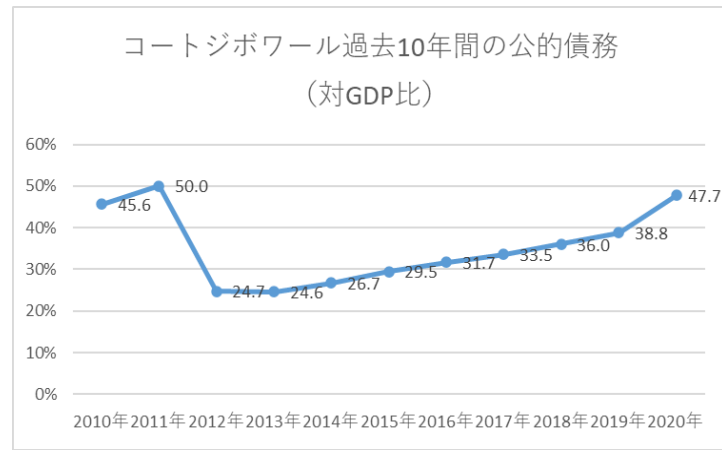
<sup>7</sup> 同国最初の感染者確認後3週間足らずの短期間で同国首相が緊急経済対策を公表した。

<sup>8</sup> 出所：SITUATION ECONOMIQUE ET FINANCIERE – FIN DECEMBRE 2020

了による包括的な対外債務の削減以降、IMF プログラムの下、経済改革及び債務管理の強化に取り組んできたことでファンダメンタルズが強固となり、その結果、堅調な経済成長<sup>9</sup>と公的債務の抑制的な運営を続け<sup>10</sup>、財政余力を有していたことが背景にあると考えられる。(グラフ 3 及び 4)



グラフ 3.コートジボワール過去 10 年間の実質 GDP 成長率の推移  
出所：IMF2021 年 10 月世界経済見通しより筆者作成



グラフ 4.コートジボワール過去 10 年間の公的債務 (対 GDP 比) の推移  
出所：IMF2021 年 10 月世界経済見通しより筆者作成

## (2) コートジボワールの明るい材料

上記以外にも、コートジボワールは以下の明るい材料がある。

### ① 新たな大規模油田の発見

コートジボワール政府 (The Ministry of Mines, Petroleum Resources and Energy) の 2021 年 9 月 1 日付プレスリリース<sup>11</sup>によれば、推定で 15 億~20 億バレルの原油と 1.8 兆~2.4 兆立方フィートの天然ガスを有する大規模油田が発見された。この発見によって、同国の石油及びガスの大幅な確認埋蔵量の増加と将来的な増産が期待できる。

### ② 原材料輸出から加工品輸出への転換の加速

コートジボワール政府は、税制優遇を設け農業製品原材料の国内加工率上昇を図っている。その流れを受けて、同国では 2021 年 11 月に既存のカカオ加工工場の大規模拡張が完了し、またカシューナッツ加工工場が新たに 3 ヶ所開設するなど、加工品輸出への転換を加速する動きが見られている<sup>12</sup>。同国は、現在の原材料輸出から付加価値をつけた加工品輸出の割合を今後更に増やす計画であり、計画通り進めば、同国の成長に大きく寄与するだろう。

<sup>9</sup> 2011 年の実質 GDP 成長率は、2010 年 11 月末から始まった政治危機・混乱に対する EU 等からの制裁等により、2011 年 1 月から 4 月まで同国の経済が一時激減したことが主な要因で、一時的に▲4.9%のマイナス成長を記録した。

<sup>10</sup> 2014 年以降同国の格付けを開始した Fitch 及び Moody's は同国の格付けを 2021 年までにそれぞれ 2 回、1 回格上げしている。

<sup>11</sup> [https://www.gouv.ci/\\_actualite-article.php?recordID=12544](https://www.gouv.ci/_actualite-article.php?recordID=12544)

<sup>12</sup> コートジボワールは世界最大のカカオ生産国 (2018 年世界シェア 37%)、殻付きカシューナッツでもベトナム、インドに次ぐ世界第 3 位の生産国 (同 12%)。(出所：国連食糧農業機関 (FAO))

### ③ 強い経済成長の予想

今後の同国は、2012年から同国の経済成長を牽引している国家開発計画<sup>13</sup>の新たなフェーズ(2021-2025)実施等により、下表のとおり強い経済成長が予想されている。新たなフェーズの国家開発計画は現在草案中であるが、IMF4条報告(2021年8月)によると、工業分野の発展、生産性の向上、人的資本とガバナンスの強化を通して、より包括的で高度な成長に向けた経済・社会構造の転換を目指す内容となっている。同国政府は、草案段階から、本計画の実施により2021年-2025年の平均経済成長率が7.7%になると予想している。

年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
予想GDP成長率	5.96	6.47	6.43	6.30	6.10	6.00

出所：IMF2021年10月世界経済見通しより筆者作成

### ④ 安定に向かっている政治状況

コートジボワールでは、2002年以降2つの内戦が発生し、2011年5月まで政情が混乱した状況であった。然し乍ら、2011年5月のウワタラ大統領正式就任以降は2015年10月の大統領選挙が平和裏に実施されるなど、政情が落ち着いている。このことは、上記グラフ3にも示されている通り、2012年以降の同国経済の顕著な伸びにも反映されていると言える。

昨年10月末に実施された大統領選挙では、現職のウワタラ大統領の三期目出馬を巡り野党が選挙をボイコット、さらに与野党支持者間で衝突が発生する等、政情が一時混乱し、緊張が高まった。しかし、当選後のウワタラ大統領による野党との対話等の努力により、緊張関係は次第に緩和されており、同国の政治状況は安定に向かっている状況にある。

## 2. 結び

コートジボワールにはリジリエンスのある経済構造や、油田の発見、原材料輸出から加工品輸出への転換、政治の安定化、過去約10年の経済成長を牽引してきた国家開発計画の継続等、今後の成長にとってプラスの要素が揃っている。他方、今後新型コロナが同国の成長にどの程度影響を及ぼすかは依然として懸念材料である。変異株による感染再拡大が起こった際にも経済活動を停滞させないために、行動制限に頼らず、同国内のワクチン接種率を向上させる(本稿執筆現在、同国のワクチン接種率は約7%<sup>14</sup>)等により感染拡大を抑制することが重要になってくるだろう。

2021年3月に日・コートジボワール投資協定が発効し、日本から同国への投資環境が整った。今後の新型コロナの感染状況や同国でのワクチン接種率の動向に注意しながら、コートジボワールが、上述のプラス要素を活かして西部アフリカ地域を成長に導く明るい光になれるか、注目していきたい。

(2021年11月19日記)

<sup>13</sup> コートジボワール政府はこれまで、国家開発計画2012-2015、国家開発計画2016-2020を実施。

<sup>14</sup> 新型コロナワクチン接種回数(2021年11月13日時点)：3,687,408回(出所：WHOホームページ)

コートジボワール人口：26,378,275人(出所：世銀ホームページ)

必要な接種回数を一人につき2回と想定して、以上の数値を使用しワクチン接種率を計算した結果、6.98%(≒7%)。